

## 園だより 7月

主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください。

詩編 25 編 4 節

梅雨の季節に入りました。時々雨の日があつたりする中、「分散登園」という、誰もが初めて経験する幼稚園の日々が繰り広げられた6月でした。

最初は学年ごとの登園、二週目後半から在園児半分の人数が交代で登園。長い家庭のみでの生活からできるだけスムーズに園生活に移行できるようにと考え、また学年ごとの子どもたちの育みに沿った日程を整え、ひと月を過ごしました。子どもたちが決して無理をせず園生活を楽しみ、過ごすことが出来るように、保育者たちは子どもたちの日々の様子を捉えながら環境を考え、寄り添い見守り過ごしました。そして、子どもたちも一人ひとりゆっくりと園生活のリズムを馴染んでいきました。

進級児にとって、一つ大きな学年になった喜びとともに、新しいお部屋とお友達や先生たちと過ごす日々は、ドキドキしつつも待望んだ嬉しいときとなりました。新入園児にとっては幼稚園が「安心の場所」となるまでの「とき」。さまざまな様子が見られました。

自分のペースで過ごし遊ぶ子。不安な表情を見せながら、まずは先生たちを拠り所にお友だちと過ごす子。泣くことで自分の気持ちを表現し少しずつ自らの気持ちを切り替えて遊びだす子。通常登園でないことから例年よりその期間が沢山必要だった今年度。子どもたちのありのままを受け止めながら、改めて毎日登園し、安定した日々の流れを繰り返し過ごすことがどれほどに子どもたちの心に平安をもたらし、自ら進んでいくエネルギーの源となることか、学年ごとの日と全学年混合の日での遊びの展開、子ども同士の関わり合いの違いから、子どもたちの成長にとって異年齢の子どもたちが共に過ごすことの重要性、分散登園という平常ではない日々であったからこそ改めて確認出来た恵みでありました。そして、どの様な状況であっても、ゆっくりと流れる幼稚園の日々に身を置き、穏やかに過ごす中、子どもたちの心の育みが成されることに感謝でした。

7月、全園児を迎えてたっぷりと過ごすひと月となります。新しい生活習慣を工夫し、厳守しつつ、平穏な日々を過ごして参りたいと願います。保護者の皆様のご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子